

老年看護学シラバス

専門分野 II

(令和3年度2年生用)

授業科目	老年看護学方法論 I (生活機能に応じた援助技術)	講師	氏名	兼本 恵美	開講年次 2年次 前期	単位・時間 1単位 30時間				
			所属	専任教員						
			実務経験	臨床看護師						
授業の目的		あらゆる健康状態にある高齢者が、それぞれ生活しているあらゆる場所で、その人らしい人生が完結できることが望ましい。そのためには、家族支援の在り方や高齢者の自己決定権を尊重することが重要であることを理解する。その上で、対象の老化や健康障害に応じた看護の展開をより深く理解する。								
到達目標		1. 高齢者の生活機能に応じたコミュニケーション方法について具体的に述べることができる。 2. ICF を考慮した高齢者の生活について説明できる。 3. 加齢に伴う身体的・精神的变化についてアセスメントできる。 4. 「認知症」について、その概要を踏まえた患者及び家族への支援について説明できる。 5. 高齢者とその家族に関わる倫理的課題について、多方面から討議できる。 6. 様々な場所で生活する高齢者の看護について、その特徴を説明できる。 7. 終末期における高齢者および家族を対象とした看護について説明できる。								
回	授業計画・内容	方法	その他	回	授業計画・内容	方法	その他			
1 2	生活を支える看護 1) 生活機能の考え方 (ICF) 2) 住まい 3) 経済的状態 4) 社会参加 5) セクシュアリティ	講義	確認 テスト	10 11	高齢者のうつ病・せん妄 1) うつ病の背景と特徴 2) うつ病の看護のポイント 3) 高齢者のせん妄 4) せん妄を引き起こす要因とアセスメント・せん妄予防 5) 事例展開	講義	確認 テスト			
3 4	高齢者に対するアセスメント 1) 包括的な機能のアセスメント 2) 高齢者のフィジカルアセスメント 3) 高齢者の疾患の特徴	講義	確認 テスト	12	終末期看護	講義	確認 テスト			
5 9	認知症 1) 認知症とは 2) 認知症の種類 3) 認知症の症状 4) 認知症の評価方法・予防 5) 家族支援 6) 倫理的課題	講義	確認 テスト	13 14 15	高齢者のコミュニケーション 1) コミュニケーションの特徴 2) コミュニケーション方法 (失語 認知症) 高齢者との関わり コミュニケーション技術 ・認知症患者 ・健康な高齢者	講義 演習	確認 テスト			
評価方法及び評価基準		定期試験（筆記） 100% (7月)								
テキスト		高齢者の健康と障害 老年看護学① (メディカ出版) 高齢者看護の実践 老年看護学② (メディカ出版)								
参考文献		系統看護学講座 専門分野II 老年看護学 (医学書院) 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院) パーフェクト臨床実習ガイド老年看護 (照林社)								
備考		臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。								

## 小児看護学シラバス

専門分野Ⅱ

(令和3年度2年生用)

授業科目	小児看護学方法論Ⅰ (小児看護に必要な援助方法)	講師	氏名	①田中 千尋 ②寺田 敏子	開講年次	単位・時間			
			所属	①専任教員 ②病院	2年次 前期	1単位 30時間			
			実務経験	臨床看護師					
授業の目的	小児の特徴を理解し、健康障害を持つ小児と家族に対する看護の在り方を考えるとともに、小児看護に必要な援助方法の基本を学ぶ。								
到達目標	1. 健康障害が小児及び家族に及ぼす影響について説明できる。 2. 症状のメカニズムを理解し、症状に合わせた援助方法を提示できる。 3. 検査処置を受ける小児に対する看護が説明できる。 4. 小児の健康障害のアセスメントを行うためのフィジカルエグザミネーションが正確にできる。 5. 小児に起こった事故と外傷に対し、適切な処置が実践できる。 6. 小児外来の看護がロールプレイできる。								
回数	授業計画・授業内容	授業方法	その他 (学習課題等)	回数	授業計画・授業内容	授業方法			
1 2	小児フィジカルアセスメント ① 小児のバイタルサイン (体温・呼吸・心拍・脈拍・血圧) ② 身体計測 (体重・身長・頭囲・胸囲測定) ③ 意識レベルの評価	講義 (田中)	レポート提出 「小児バイタルサイン測定」	10 11	処置を受ける子どもの看護 ① 与薬 ② 採尿・採便 ③ 採血 ④ 末梢静脈内持続点滴 ⑤ 酸素吸入 ⑥ 吸入 ⑦ 経管栄養 ⑧ 流通・綿棒刺激	講義 (寺田)	レポート提出 「処置・検査を受ける小児の看護」		
3	① 子どもの一次救命処置(BLS) ② 乳児のバイタルサイン測定	演習 (田中)		12	検査を受ける子どもの看護 ① 鎮静と抑制 ② 画像検査 ③ 骨髄穿刺 ④ 腰椎穿刺	講義 (寺田)			
4 5	病気・障害が子どもに与える影響 ① 病気・障害に対する子どもと家族の理解 ② インフォームドアセント ③ プレパレーション	講義 (田中)		13	救急処置が必要な子どもの看護 ① トリアージ ② 頭部外傷 ③ 誤飲・窒息 ④ 溺水 ⑤ 熱傷	講義 (寺田)			
6 7	乳幼児健康診査 4ヶ月・10ヶ月・1歳6ヶ月・3歳 ① 診察 ② 保健指導 ③ 予防接種 ④ 予防接種のプレパレーション	講義 GW (田中)	レポート提出 「乳幼児健診」「予防接種」	14	外来における子どもと家族の看護 ① 外来の環境 ③ 外来看護師の役割 ④ 問診・診察時の介助	演習 (田中)	レポート提出 「小児外来の看護」		
8 9	症状を示す子どもと家族の看護 ① 発熱 ② 便秘 ③ 嘔吐・下痢 ④ 脱水 ⑥ けいれん	講義 (田中)		15	⑤ 健康診査・予防接種				
評価方法及び評価基準	① 定期試験(筆記) 80% (7月) レポート 20% レポート提出期限厳守 未提出は0点 合計 100% (小児バイタルサイン測定、乳幼児健診、予防接種、処置・検査を受ける小児の看護、小児外来の看護) ② 実技試験 100% (乳児のバイタルサイン測定・身体測定) (9月) ① ②ともに評価基準を満たした者を合格とする ※レポートは小児看護学実習Ⅰ・Ⅱの事前学習に使用する。								
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学[2] (医学書院)								
参考文献	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (メディカ出版)								
備考	臨床(病院)での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。								

小児看護学シラバス

専門分野Ⅱ

(令和3年度2年生用)

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ (小児の健康障害に応じた看護)	講師	氏名	①田中 千尋 ②寺田 敏子	開講年次 2年次 前期～後期	単位・時間 2単位 45時間			
			所属	①専任教員 ②病院					
			実務経験	臨床看護師					
授業の目的	あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対して、個別的な看護を実践するために必要な基本的知識・技術・態度を学ぶ。								
到達目標	1. 慢性期の子どもの発達段階に応じた健康管理と病態に合わせた看護について説明できる。 2. 周手術期の子どもの発達段階に応じた術前・術後の看護と病態に合わせた看護について説明できる。 3. 感染症の子どもの回復過程に合わせた看護について説明できる。 4. 終末期の子どもの死のとらえ方と子どもと家族の看護について説明できる。 5. 障害を持つ子どもの特徴と日常生活の自立に向けた看護について説明できる。 6. 事例を通して子どもの成長・発達をふまえたアセスメントが実施できる。								
回数	授業計画・授業内容	授業方法	その他 (学習課題等)	回数	授業計画・授業内容	授業方法	その他 (学習課題等)		
1 2	小児疾患の特徴 入院中の子どもと家族の看護 医療費の助成	講義 (田中)		15 16 17	小児の看護過程（1） ① アセスメント ② 関連図 ③ 計画立案	講義 (田中)	レポート提出 「関連図」「看護計画」		
3 4 5 6 7	慢性期にある小児と家族の看護 (アレルギー・糖尿病・腎疾患) ① 疾病コントロールを必要とする疾患の病態と治療 ② 発達段階に応じた健康管理	講義 (田中)		18	小児の看護過程（2） ① 看護実践 ② 評価・修正	演習 (田中)			
8 9	感染症をもつ小児と家族の看護 (ウイルス・細菌感染症) ① 症状を緩和するためのケア ② 合併症予防のためのケア ③ 小児によくみられる感染症の感染源・感染経路 ④ 回復過程と合併症	講義 (寺田)		19	終末期の小児と家族の看護 (悪性腫瘍) ① 発達段階による死の理解 ② 痛み不安へのケア ③ 告知後の家族のケア ④ 兄弟他の小児に与える	講義 (田中)			
10 11 12 13 14	手術を必要とする小児と家族の看護 (循環器・消化器・耳鼻科疾患) ① 手術を受ける小児の特徴 ② 全身麻酔を受ける小児の術前・術後の援助	講義 (田中)		20 21	医療的ケアを必要とする小児と家族の看護 (脳神経疾患・筋疾患) ① 障害をもつ小児の特徴 ② 日常生活の自立のケア	講義 (田中)			
				22 23	先天異常をもつ小児と家族の看護 (染色体異常) ① 先天異常をもつ家族の反応 ② 先天異常をもつ疾患の看護	講義 (田中)			
評価方法及び 評価基準	① 定期試験（筆記） 90% (10月) ② レポート 10% (事例の関連図・看護計画) レポート提出期限厳守 未提出は0点						合計 100%		
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学[2] (医学書院) NANDA 看護診断 定義と分類 (医学書院)								
参考文献	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 (メディカ出版)								
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。								

精神看護学シラバス

専門分野II

(令和3年度2年生用)

授業科目	精神看護学方法論 II	講師	氏名	戸田真理	開講年次	単位・時間			
			所属	専任教員	2年次 前～後期	2単位 30時間			
			実務経験	臨床看護師					
授業の目的	事例を通して、精神症状から起こる生活上の問題をアセスメントし、精神障害者の生きづらさやステイグマを理解し、看護の方法を学ぶ。								
到達目標	1. 精神障害の病態及び全体像を関連図に描くことができる。 2. 事例を通して、精神障害により健康が脅かされることで生じる日常生活や社会生活への影響を回復するための看護を検討できる。 3. 専門的コミュニケーション技術を実践し、自己の関わりの傾向を振り返ることができる。								
回数	授業計画	授業方法	その他	回数	授業計画	授業方法			
1~3	器質性精神障害・精神作用物質 神経発達障害の理解と看護	講義 ワーク	関連図 作成	10~12	統合失調症の理解 と看護（事例展開）	講義			
4~5	ストレス関連・人格・摂食障害 の理解と看護	講義 ワーク	関連図 作成						
6	地域における精神看護および 災害時の精神看護	講義		13~15	専門的コミュニケーション技術を使ったロー ルプレイを実施し自己の振り返りを行う	ロー ル プレイ			
7~9	うつ病の理解と看護 (事例展開)	講義							
評価方法及び 評価基準	①定期試験（筆記）70%（1月） ②関連図（統合失調症・うつ病）ロールプレイ実施 30%								
	合計 100%								
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 精神看護学の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野II 精神看護学の展開 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)								
参考文献	看護理論を看護過程に生かす本 (照林社) 人間関係の看護論=ペプロウ								
備 考	毎回の講義前にはテキストの該当箇所を事前に予習して臨むこと。 関連図・ロールプレイについては自己学習して臨むこと。 臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。								

## 老年看護学実習シラバス

専門分野 II

(令和 3 年度 2 年生用)

授業科目	老年看護学実習 I	講師	氏名	兼本 恵美 大田 麻衣	開講時期	単位・時間数	
			所属	専任教員	2 年次 後期	1 単位 45 時間	
			実務経験	臨床看護師	10 月～1 月		
実習目的	各施設で生活している老年者との交流を通して、高齢者一人ひとりの生活史や個性の違いを理解する。その上で、各施設の特徴と高齢者の健康を支援する活動内容および、看護の役割、多職種との連携について学ぶ。						
実習目標	1. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。 2. 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる。 3. 施設で療養生活を送る高齢者および家族とコミュニケーションをとることができ、円滑な人間関係を築くことができる。 4. 施設で生活する高齢者および家族が持つ健康問題を把握し、生活の質（QOL）の向上を目指した援助を実施することができる。 5. 高齢者の健康と生活を支えるための社会資源について理解することができる。 6. 施設で働く看護師の役割を知るとともに、高齢者の生活を支える多職種との連携について理解できる。						
実習期間および実習時間	1. 実習期間：6 日間 2. 実習時間：原則として 9:00 から 17:00 3. 学内 実習オリエンテーション 1.5 時間						
実習内容および実習方法	<p>(実習内容)            高齢者とのコミュニケーションを図り、尊重した態度や支援する活動内容を通して高齢者の QOL について考える。</p> <p>(実習方法)            生活の場である各施設で、対象者の安全・自立に向けた日常生活援助を行う。            * 詳細は、老年看護学実習 I 実習要領および実習オリエンテーションで伝える。</p>						
実習施設	1. 特別養護老人ホーム 津屋崎園（従来型） 2 日間 2. 特別養護老人ホーム 第 2 津屋崎園（ユニット型） 2 日間 3. グループホーム 和らぎ 2 日間						
評価方法および評価基準	1. 「評価規程」及び「実習に関する規程」、「補習実習及び再実習に関する規程」に基づいて行う。 2. 老年看護学実習 II の実習状況を基に、評価表により評価する。 1) 特別養護老人ホーム津屋崎園 2) 特別養護老人ホーム第二津屋崎園 3) グループホーム和らぎ 合計 100%						
教科書・参考書	詳細は老年看護学実習 I 実習要領および実習オリエンテーションを参照して下さい。						
留意事項	1. 身だしなみを整え、看護学生としての自覚を持ち行動する。 2. 感染の媒体にならない様に予防を徹底する。 3. 対象者の安全が最優先されるため、確実な看護技術を学内で練習して実習に臨むこと。						
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。						

## 小児看護学実習シラバス

専門分野 II

(令和3年度 2年生用)

授業科目	小児看護学実習 I	講師	氏名	田中千尋	開講時期	単位・時間数				
			所属	専任教員	2年次 小児科クリニック 8月 保育園実習 10月～11月	1単位 4.5時間				
			実務経験	臨床看護師						
実習目的		1. 小児科クリニック実習 地域の子どもの健康を守るために外来の機能を理解する。 2. 保育園実習 健康な子どもと接し、乳幼児の成長・発達を理解し、年齢に応じた成長・発達の援助ができる基礎能力を身につける。								
実習目標		1. 小児科クリニック実習 1) 外来看護師の役割を知る。 2) どのような子どもが外来を訪れるか対象を知る。 3) 外来に環境を知る。 2. 保育園実習 1) 乳幼児の成長・発達に応じた生活援助ができる 2) 乳幼児の成長・発達及び生活習慣の自立度の評価ができる 3) 子どもとの関わりを通してコミュニケーションがとれる。 4) 集団生活における安全と健康管理について理解できる。								
実習期間 および実習時間	1. 実習期間：小児科クリニック実習 1日・保育園実習 5日間 2. 実習時間：原則として 8:30 から 16:45									
実習内容 および実習方法	1. 小児科クリニック実習 (実習内容) 外来看護師の役割、外来受診をする対象、外来の環境を学ぶ。 (実習方法) 外来看護師に同行し、診察・検査・処置を見学する。 2. 保育園実習 (実習内容) 乳幼児の成長・発達に応じた生活援助、集団生活における安全と健康管理について学ぶ。 (実習方法) 各クラスに日替わりで入り、子どもと関わり、保育士と一緒に生活援助を行う。 * 詳細は、小児看護学実習 I 実習要領および実習オリエンテーションを参考にして下さい。									
実習施設	1. 福津市及び宗像市の小児科クリニック・小児科医院 9施設のいずれかで実習を行う 2. 福津市市内の保育所及び保育園 7施設のいずれかで実習を行う。									
評価方法および 評価基準	1. 「評価規程」及び「実習に関する規程」、「補習実習及び再実習に関する規程」に基づく。 2. 小児看護学実習 I の実習状況を基に、評価表により評価する。 1) 小児科クリニック実習 30% 2) 保育園実習 70% 合計 100%									
教科書 参考書	詳細は小児看護学実習 I 実習要領および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。									
留意事項	看護学生として、臨地実習をさせていただく意義をしっかりと自覚しましょう。その上で、責任ある行動がとれるように、事前学習・準備を行い、自信をもって活用・実践できる状態にしておきましょう。									
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。									

小児看護学実習シラバス

専門分野II

(令和3年度 2年生用)

授業科目	小児看護学実習 II	講師	氏名	田中千尋	開講時期	単位・時間数	
			所属	専任教員	2年次 小児病棟・小児外来	1単位 45時間	
			実務経験	臨床看護師	11月～3月		
実習目的	<p>1. 小児病棟実習 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解し、健康障害をもつ小児と家族に対して看護の実際について学ぶ。</p> <p>2. 小児外来実習 健康障害を持つ小児と家族に対して外来看護の実際を学ぶ。</p>						
実習目標	<p>1. 小児病棟実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を考え、患児に必要な看護について理解できる。</li> <li>2) 健康障害、発達段階に応じた生活援助が理解できる。</li> <li>3) 患児に行われている治療、処置、検査について理解でき、発達段階の応じたケアを行う。</li> <li>4) 患児とのかかわりの中で、感染予防や安全について考え方行動できる。</li> <li>5) 小児病棟に特殊性が理解できる。</li> </ol> <p>2. 小児外来実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を考え、家庭でのケアの必要性を理解できる。</li> <li>2) 外来で行われている処置、検査、治療、必要なケアを知り、発達段階の応じたケアを行う。</li> <li>3) 感染予防や安全について考え方行動できる。</li> <li>4) 小児外来の環境が理解できる。</li> </ol>						
実習期間 および実習時間	<p>1. 実習期間：小児病棟実習3日間・小児外来実習3日間</p> <p>2. 実習時間：原則として8:30から16:45</p>						
実習内容 および実習方法	<p>1. 小児病棟実習 (実習内容) 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を考え、患児に必要な看護、発達段階の応じたケア、健康障害、発達段階に応じた生活援助と患児とのかかわりの中で、感染予防や安全を学ぶ。 (実習方法) 受け持ち患児のバイタルサイン測定や生活援助を指導者と一緒に行う。</p> <p>2. 小児外来実習 (実習内容) 健康障害が小児と家族に及ぼす影響を考え、家庭でのケア、発達段階の応じたケアを学ぶ。 (実習方法) 体温測定、身体測定、診察介助を見学もしくは指導者と一緒に行う。</p> <p>*詳細は、小児看護学実習II実習要領および実習オリエンテーションを参考にしてください。</p>						
実習施設	済生会八幡総合病院 西6病棟・小児外来						
評価方法 および評価基準	<p>1. 「評価規程」及び「実習に関する規程」、「補習実習及び再実習に関する規程」に基づく。</p> <p>2. 小児看護学実習Iの実習状況を基に、評価表により評価する。</p> <p>1) 小児病棟実習 50%</p> <p>2) 小児外来実習 50% 合計100%</p>						
教科書・参考書	詳細は小児看護学実習II実習要領および実習オリエンテーション時配布資料を参照して下さい。						
留意事項	看護学生として、臨地実習をさせていただく意義をしっかりと自覚しましょう。その上で、責任ある行動がとれるように、事前学習・準備を行い、自信をもって活用・実践できる状態にしておきましょう。						
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。						

## 精神看護学実習シラバス

専門分野II

(令和3年度 2年生用)

授業科目	精神看護学実習	講師	氏名	戸田真理 他	開講時期	単位・時間数	
			所属	専任教員	2年次	2単位	
			実務経験	臨床看護師	後期	90時間	
実習目的	講義や演習で学んだ知識・技術・態度を活用することにより精神疾患を抱えた障害者への看護を実践する能力を養う。また心の健康問題を抱える人々を通して自己活用の在り方を理解し、看護の実践を身につける。						
実習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科病院の特徴を知る。</li> <li>2. 対象を身体的、精神的、社会的側面から捉えることが出来る。</li> <li>3. 対象の精神症状から起こる生活障害を理解できる。</li> <li>4. 対象やその他の障害者と治療的なコミュニケーションを図ることが出来る。</li> <li>5. 対象と関わることで自己を振り返ることが出来る。</li> <li>6. 精神障害者の社会復帰や地域サービスについて理解できる。</li> <li>7. 多職種連携を見学し、それぞれの役割と地域連携について理解できる。</li> </ol>						
実習期間及び 実習時間	<p>1. 実習期間：11日間（臨地実習）1日間（学内実習）計12日間</p> <p>2. 実習時間：原則として、8：30～16：45</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学内での実習オリエンテーション（1.5H）</li> <li>2) 実習施設での現地オリエンテーション（3.5H）</li> <li>3) 現地オリエンテーション後学内でのオリエンテーション（2H）</li> </ol> <p>*実習9日目は8：30～17：15</p>						
実習内容及び 実習方法	<p>(実習内容) 受け持ち患者1名を自己で決定し、ペプロウの看護理論を活用し看護を実践する。</p> <p>(実習方法) 各実習施設の指示に従い、グループ別に行う。</p> <p>*詳細については精神看護学実習要領を参照のこと</p>						
実習施設	福間病院						
評価方法及び 評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「評価規程」及び「実習に関する規程」、「補習実習及び再実習に関する規程」に基づく</li> <li>2. 精神看護学実習の実習状況を基に、評価表により、100%とする。</li> </ol>						
テキスト及び 参考書	<p>学内講義で使用したテキスト及び資料</p> <p>その他必要と思われる参考書を各自準備する</p>						
留意事項	冬季の実習になるため、体調管理を行い臨むこと						
備考	臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に則した授業・演習を行います。						